

事業結果要約報告書

受付番号

2020 KJ-003

—科学技術振興関係—

公益財団法人 **マツダ財団** 御中

令和3年5月12日

所属機関名 広島干潟生物研究会

申請代表者

役 職 事務局長

フリガナ クヤミツオ

氏 名 く や み つ お

マツダ財団から受けた 助成金 200 千円 による事業結果について、
次のとおり報告します。

助成事業名

第5回 広島ジュニアサイエンスフェア

(事業期間： 令和3年1月11日～令和3年1月11日)

	計 画	実 施 結 果
事 業 内 容	日時 令和3年1月11日 場所 広島市青少年センター (広島市中区) 対象 青少年・一般 定員 600名 (応募数は737名) 内容 科学研究発表、ポスターセッション、講演、科学 写真展、実験/体験コーナー	日時 令和3年3月28日 場所 己斐公民館 (広島市西区) 対象 研究発表者、その家族や担任、次年度発表予定 者 参加者(人) 65名 内訳 (小中高の先生; 2人) (生徒; 32人) 内容 科学研究発表と講演に限定して開催。 (新型コロナウイルス感染対策のため、開催を延 期し、規模を縮小して行った。) 講演; 1件、発表; 10件、シンポジウム; 0件

事業の目的・ねらい

児童・生徒による科学研究の口頭発表、ポスターセッション、科学実験ブース運営、科学写真展、及び専門家による講演、獣医師やさとうみ科学館スタッフによる体験コーナー等を通じて、参加者に楽しみながら科学的素養を培い、科学技術や科学研究の振興に役立てる。

事業の概要

1月11日開催の予定で直前まで準備を進め、参加者の受け付けも進めていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらず、12月25日の段階でいったん中止を決定し、規模を縮小した代替えで後日開催することとした。

【計画】

- 期日 令和3年1月11日実施予定
- 場所 広島市青少年センター 7室
- 内容

科学研究口頭発表……小学生2、中学生4、高校生4（去年は小3、中5、高4）

（いずれも、広島市科学賞、広島県科学賞で高く評価された作品であり、このうち1点は日本学生科学賞中央審査に出品され、他には旺文社全国上位入選、筑波大学科学の芽賞最優秀賞など、すべて模範的な研究である。）

科学研究ポスターセッション……すべてA1サイズのカラーで展示枚数は22点（去年は24点）

講演……感染症の専門家による講演と科学研究指導者による講演（新規事業）

実験コーナー……12ブース（去年は12ブース） 高校生の有志によるブースが5件、(株)ナリカによるブースが7件。ナリカの7件については、ジュニアスタッフの中・高校生も運営参加予定。

体験コーナー……獣医師7名（去年は6名）の指導による獣医師体験。児童・生徒が手術着をまもって模擬手術などを体験予定。

ふしぎ写真展……A4サイズ60点（去年は99点）。昨年好評だったスマホ撮影体験（偏光フィルターによる特殊撮影技術）コーナーを今年度も設置予定。

実験教材の配布……空を飛ぶ種の模型と実物を中学生以下の全員に配布予定。また自作どんぐり笛も配布予定。

カブトガニ展……大柿自然環境体験学習交流館（さとうみ科学館）の協力により、カブトガニ幼生の実物やパネルの展示予定。

【実施】

- 期日 令和3年3月28日
- 場所 己斐公民館（広島市西区） 1室
- 内容

科学研究口頭発表……小学生2、中学生4、高校生4

講演……「食中毒と感染症」元広島県動物愛護センター所長 松田 政明氏

成果・効果

当初、737名の応募があったが、結果的に65名での開催となった。したがって、当初想定していた成果、効果は大幅に薄れてしまった。しかし、以下の点で多少なりとも効果があったとおもわれる。

【参加者への効果】

・発表予定者は、ポスター（これがじゃすふぁガイドの原稿となる）を作成し、発表用のスライドも作り上げて発表の練習の指導を受けてきたため、発表会場が小さくなったとはいえ、その営みの中で、研究内容はもとより、わかりやすく伝える手法などを身に付けることができた。聴衆にとっても、すべてレベルの高い模範的な研究であったため、参考になったという声が聞かれた。

・講演はコロナ禍にあってまさにタイムリーな内容であり、聴衆は今後の生活に大いに参考になった。

【地域への効果】

・当初の応募者に中止を宣言するメールを送付する際に、「じゃすふぁガイド」とどんぐり笛の無料送付サービス（ただし郵送料負担）の案内をしたところ、66件のリクエストがあり、約150部のガイドを配布することができた。参加できなかった方も冊子を手元に置くことで発表内容の概要を把握でき、また自宅で実験ブースの再現を試みた方もいたようだ。

・後援をいただいた広島市、呉市、東広島市、廿日市市、江田島市のすべての小・中学校に2冊ずつ「じゃすふぁガイド」を配布することができたため、各校で科学研究の参考書として役立っていると考えられ、理科教育、

科学教育の進展に寄与する可能性がある。なお、それぞれの教育委員会にも10冊ずつ配布した。

【その他の効果】

・発表会の当日に合わせて株式会社 Nikon 本社から3名の動画取材スタッフがおいでになり、高校生のカンチームの発表が撮影された。後日 Zoom でのインタビューも録画され、これらは Nikon の商業フィルムとして6月中に Nikon のサイトにアップされる予定である。高校生の研究ではあるが、大学や企業の研究者と並んで掲載されることで、子どもたちの科学研究への動機付けに貢献できるかもしれない。

(<https://www.healthcare.nikon.com/ja/well-being/index.html>)

写真、図



写真1 じゃすふあガイド



写真2 会場風景



写真3 科学研究口頭発表風景



写真4 集合写真